

本時のねらい (2/14時)
4. 2×3 の計算の方法について今までの学習をもとに考え、被乗数が小数の場合も筆算で計算できることがわかる。

評価規準
<数学的な考え方> 小数の筆算の仕方は小数を0.1を単位として見ることにより整数の乗法に帰着できると考える。

過程	主な学習活動	個のつまずきに応じた指導・援助						
問題	<p>1, 問題提示をする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 4. 2mのひもを3本使います。ひもは全部で何mいるでしょう。 </div>	○すばやくノートに貼る。						
見通し	<p>2, 見通しを持つ</p> <p>○ 4. 2×3で求められそうだ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨日と違うところは、一の位にも数字がある (暗算で計算できない) 	○今日の式は、小数×整数の計算だということに注目させる。						
課題	<p>3, 課題提示</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; width: fit-content;"> 4. 2×3の計算のしかたを考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間の式とはどこがちがうだろう 1の位に数字がある。 ・似ているところはどこだろう 小数×整数になっている。 						
考え	<p>4, 個人追求、全体交流</p> <p>○ 4. 2は0.1が42個に気づいて計算する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4. 2は0, 1が42個だから 42×3を筆算で計算して126 0, 1が126個で12, 6 <p>○ 4, 2は4と0, 2なので、 $4 \times 3 + 0, 2 \times 3 = 12, 6$</p> <p>○ ひっ算</p> <table style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td>4. 2</td><td>42</td></tr> <tr><td>$\times 3$</td><td>$\times 3$</td></tr> <tr><td>12. 6</td><td>126</td></tr> </table> <p>比べて説明</p>	4. 2	42	$\times 3$	$\times 3$	12. 6	126	<p>○ 今までの学習をもとに自分の考え方で答えを導き出させる。</p> <p>○ 一つの考え方で答えが出せた児童には他の考え方も考えてみるよう促す。</p> <p>◎ 「0.1のいくつ分であるか」で説明できる。 支援：式だけに終わらず、必ず説明を書かせる。</p> <p>◎ 整数と小数に分けて計算できる。 支援：分けて計算する利点を考えさせる。</p> <p>◎ 筆算で計算できる。 支援：0.1のいくつ分になっているということを使って説明できるよう支援する。</p>
4. 2	42							
$\times 3$	$\times 3$							
12. 6	126							
交流	<p>○ 考えを交流し0.1のいくつ分ということを使って説明できる。</p> <p>○ 「は・か・せ・どん」で42×3の計算をすればよいことに気づかせる。</p>	<p>○ 類型化した指名と板書をする。</p> <p>○ 「はかせどん」に基づけば筆算で計算した方がよいことがわかる。</p>						
まとめ	<p>5, まとめ</p> <p>○ 本時のまとめをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小数×整数のかけ算のひっ算は0.1をもとにすると整数のかけ算と同じように計算できる。 ・ 小数のかけ算はひっ算で計算すると早くできる。 </div>						
力試し	○ 練習問題をする	○ 小数点は、かけられる数にあわせて打つこと (整数のひっ算と対比させる)						
振り返り	○ 自己評価をする	○ 2回繰り上がりの計算練習をする。						
		○ 自己評価カードから理解度を把握する。						